

安全なトイレを目指す、 世田谷区教育委員会の試み。

東京都世田谷区立 三宿小学校

大

人にとっては「ありえない」ようなことが子どもの世界では往々にして起こるもの。

たとえば「指詰め」。一般社会では電車のドアの「指詰め注意」というステッカーでぐらいいしか見ない言葉だが、向上する運動能力と注意力のバランスがまだ取れない児童の間では割合ポピュラーな事故だという。特にあわてて出入りすることの多い、トイレでは頻度も高まるようだ。トイレの環境改善を考えると、美しいトイレという視点が一般的だが、世田谷区教育委員会では、これに加えて「指詰め防止ブース」の採用を学校トイレ改装にあたっての標準仕様とした。

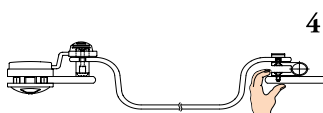
「トイレの環境改善については平成11年度から本格的に議論をはじめ、基準となる標準仕様やトイレを改修する場合のポイントを機会があるたびに見直し、子どもたちにとってよりよいトイレ作りを目指しています」

世田谷区教育委員会事務局施設課・松本係長の説明によると、指詰めに関しては学校からの報告があったことをきっかけに議論をはじめ、仕様の見直しを行

ったという。また、トイレブースの間仕切りを乗り越えられないよう、天井まで立ち上げたり、児童の飛び出し防止のために、トイレの床と廊下の床の色を変えたり……。安全に配慮した指針は多岐にわたる。

「学校では何もトラブルが起き

ないのが理想です。ですから、事故が起きる前に危険の芽を摘み取っていくことが大切です」
世田谷区教育委員会が進める「安全」な学校トイレ作り。今後の学校トイレを考える上で、これも避けられないキーワードになっていくだろう。



1. 三宿小学校で採用された指詰め防止ドアを備えたブース。ソリッドパネルを使用しているため堅牢性も高い。

2.3. 扉の戸先と吊元部分を曲げ加工し、扉と前面パネルの間に29ミリ程度の隙間を作っており、指をはさまない構造になっている。

4. ドアを上部から見ると、仕組みがわかりやすい。隙間はあるが、扉の曲げ角度によりブラインドを作り、中がのぞけないようになっている。



生活習慣が完全に身につかない幼稚園や保育園では指詰め防止ドアはスタンダードな設備だが、今や小中学校でも注目を集めている。
(写真は都内某幼稚園)